

日本人学校・
補習授業校を
応援します！

エー ジー ファイブ AG5 だよ

担任による日本語指導の確立

——より上質かつ効果的な指導を目指して——

台中日本人学校校長 栗田 友季子



本校におけるAG5の取り組みは3年目を迎えました。昨年までの研究に加え、本年度は「担任による日本語授業」と「研究の横展開（台湾の3つの日本人学校及びマニラ・大連・青島の日本人学校への展開）」に重点を置き、研究を進めています。担任の指導による日本語授業に加え、普段の授業の中でどのような支援ができるかという「在籍学級における日本語指導プログラムの開発」を目指して研究を行っています。

AG5と台中日本人学校

「保護者が共に、またはどちらかが日本国籍ではない児童・生徒の割合が約五〇％」というのが、本校の特徴の一つです。

AG5が掲げているねらいには、次の三点のプログラム開発があります。
・海外に在住する子どもたちに高度なグローバル人材としての基礎力を育成する。

・国際結婚家庭や永住者の子どもの増加に伴う日本語力向上のための教育を提供する日本語指導。

・日本語教育や日本文化の発信の拠点としての役割を果たす。

これらのねらいと本校の特徴を鑑みると、AG5の研究テーマの一つ「日本人学校における日本語教育プログラムの開発」に関して、本校が研究提携校となったのは当然でもあり、児童・生徒の学力向上という点において大きなチャンスでもあったわけです。

一年目（二〇一七年度）の取り組み

一七年度は、まず台湾の日本人学校三校（台北・台中・高雄）が共通理解を図り、理論研究と実態把握か

ら始めて、各々の方向性を決定するところまで進めました。六月・八月・十二月には日本から運営指導委員のメンバーに来校頂き、次の三点が始まりました。

- ・子どもの日本語能力の実態把握
- ・教員向けのJSL研修の実施
- ・日本語補習プログラムの検討

また十二月末には、台北校において日本語授業の参観と日本語指導研修会を実施。さらに翌年二月の日本国内研修では、浜松市内の小・中学校で日本語の授業を参観、及び海外子女教育振興財団で意見交換し、理論研究や方向性についての共通理解を図りました。

二年目（二〇一八年度）の取り組み

前年度の理論研究を受けて具体的な取り組みが始まり、次のような流れで研修を深めていきました。

- ・六月 台北校授業参観
- ・五月 日本語授業参観・研修会
- ・八月 日本語支援を取り入れた研究授業・実践の累積
- ・九月 AG5校内研修会
- ・八月 公開授業を受けての校内研修会（台北・高雄参加）
- ・十二月 台北校授業参観
- ・二月 日本国内研修会

「日本語授業」は、小学部の各学年担任が「日本語授業リクエスト」を提出し、それをもとに日本語指導担当者が授業を行うようにしました。

授業後、担当者は授業内容を記録し、その記録を土台として個人ごとの「日本語指導カリキュラム」を作成しました。九月には、日本語担当者として児童実態調査（DLA等を活用）を行い、職員間で結果を共有。その後の授業研究では、JSLカリキュラムの日本語支援の五つの視点（理解支援・表現支援・記憶支援・自立支援・情意支援）を意識した授業を実践しました。事前の指導案作成の際には、次の点を確認し、実践した次第です。

○指導案に日本語支援の手立てを記入すること。

小学部4年 日本語授業リクエスト

【例】10週（5月11日～5月16日）の日本語授業

- 日本の授業で学んだこと（漢字）を覚えてください。漢字の練習もお願いします。
- 日本の文化や行事について学びましょう。

【例】10週（5月11日～5月16日）の日本語授業（漢字・音読の練習）

- 音読練習
- スピーク＆リスニングの練習
- 読み聞かせの練習

◆学期の終わりに子どもたちが喜んで参加できるように日本語授業のプログラムを作りたいと思っています。よろしくおねがいします。

2日に1回、日記の宿題を出しています。
教科が少なくていいので、音読の練習も少なくていいのでいいです。文を読むと読書が楽しく、文脈の深い文章も書けるようになります。
読み聞かせの指導が得意な先生にお願いしたいです。
国語の教科書P.126 言葉のたのしみ 言葉と文化のつながり
作文指導をお願いします。

小学部4年 日本語授業リクエスト

○授業後に日本語支援に関する成果と課題をまとめること。

さらに、日本語支援の視点で指導者が具体的に取り組んできたこととしては、例えば次になります。

- ・日本語力が十分でない子に対して、モデルの提示やバイリンガルの支援員による説明など個別支援をすることを意識している。また絵本を貸出したり、授業で音読をしたりすることを継続している。
- ・基本的な文型を指導することで、説明に関するフォーマットを共有させている。
- ・「わかりやすく伝える」という相手意識・目的意識をもたせている。

小6 日本語授業

月		内 容
4月	音読 視写 プリント	
5月	音読 視写 プリント ことわざカード 作文	
6月	音読 熟語や言葉の意味の定着 辞書引き 漢字 「学級討論会しよう」互いの立場を承をはっきりさせて自分の主張をする練習し、質問にあった答えや練習をする練習 相手のよいところを認める ブレインストーミング(一つの話題について自由に意見を出し合う。)	
7月	「ようこそ、私たちの町へ」考えを助ける図表を書く。マップング 1学期の漢字ドリルの復習 ①～⑩	

小6 日本語授業

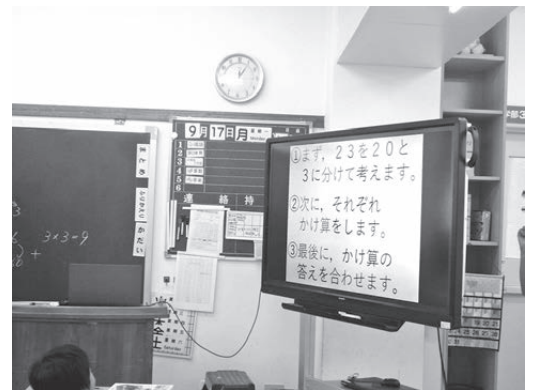
・言語習得支援の視点では、大文字やイラストに加え小文字も使用(視覚支援)している。

- ・意味のカテゴリー別に文字の色分けをしている。
- ・話し方の手本を示し、自分の考えを明確に伝えられるようにしている。
- ・算数では数直線などを用いることで、問題文の場面を視覚的に理解させることができた。
- ・教科の既習内容に関連付けながら、イメージと言葉をつなげさせている。
- ・目で見てわかる資料を多く用意し、資料活用の技能や思考力を高めさせている。
- ・日本語や学習内容の理解を促すために、視覚化・簡略化している。
- ・言葉で表現することが困難な児童が多いため、言葉以外の表現方法を示し、多様な方法での表現を促している。

・「正方形」「対角線」「垂直」「面積」「二辺」「平方根」など、学習用語をきちんと用いて説明させるよう意識している。

これらは教科の特性を超えた視点として共有されることとなり、以後の授業展開の指針として具体的な「二つの工夫」にまとめることができました。

①言葉を理解させる工夫



- ↓ 難しい言葉、理解が困難と思われる言葉を他の言葉に置き換える。
- ↓ 算数の授業では、算数の用語を意識して使う・使わせる。また、用語を用いて説明させる。
- ↓ 資料(国語辞典・言葉図鑑・資料集)から、言葉の意味や情報を獲得させる。

②視覚化して理解を促す工夫

- ↓ カードなどを提示・掲示する。
- ↓ 絵や図にして掲示する。
- ↓ 実物投影機やプロジェクターなど、ICTを活用し、よりわかりやすく示す。

以降、これらの工夫を適切に盛り込んで授業に臨むことができるようになりました。

三年目(二〇一九年度)の取り組み

二年間、台湾の三校で理論研修を積み重ね、方向性も定まった三年目。今年度のAG5は、これまでの成果を軸にして、台湾三校だけではなく、他の日本人学校(マニラ・大連・青島)への「横展開」に移行します。

そこで私たちは新たに四本柱を立てて研修に取り組んでいます。

〈柱1 学級担任による日本語授業〉

↓ 昨年度は一人の日本語担当教員が六年年の日本語授業を行っていた。しかし、児童の日本語力を把握できる学級担任が日本語授業を行うことで、よりきめ細やかな指導や支援ができ、学級での授業進度と児童の実態に合わせて授業を組み立てられる。

↓ 一年間、授業内容を記録し、カリキュラムとして構成していく。そして次年度以降は、日本語の指導法に関しても研究を進めていくとともに、その内容をどの日本人学校でも取り組めるよう、汎用性の高いものにしていきたい。

〈柱2 AG5校内研修会〉

↓ 次の研修会を実施。
・五月 台中校での日本語授業の

指導案・本時の展開

段階	学習内容・活動	手立て・留意点	知能への具体的支援
導入	1. 前時までの学習を振り返る。 ○観察記録文を書く各の観点の確認をする。 「い」「かたち」「結びつき」「たまたま」「よとき」 「変わったかたち」「にほひ」「あけ	○黒板に貼った観念のカードを削り出して読む。	○観念のカードを提示する。【国】
	2. 本時のめあてを確認する。 めあて：あさがおのようすがよくわかるように、ぶんをかこう。		
展開	3. 教科書の二種類の観察記録文の書き方を理解する。 ○音読する。 ○二つの書き方を比べる。	○二つの観察記録文の書き方について、共通点、相違点を気づかせる。	○文字を見ながら音読しているか、視覚指導で確認する。
	4. 二つの書き方のうち一つを選び、自分の観察の観察文を書く。	○二種類のワーシートを用意しておく。書きなほすを促す。	○書きたいことを声に出して言わせる。書きながら、書きかたを指導する。
	5. 交流する。 質疑応答：書いた文を伝え合う。	○ペアで文を読ませる。 ○上がったところを伝えるようにさせる。	○伝え方の必要を示す。【英】

↓ 前期(六月)後期(十月)に日本語支援の手立てを意識した授業を行う。

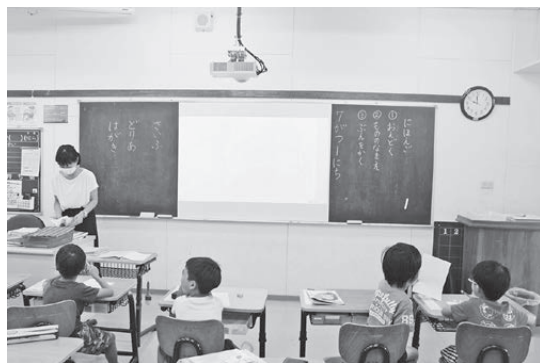
↓ 日本語支援対象となる児童・生徒一人を絞り、日本語支援の手立てを組み込み、指導案に記入する(指導案様式の改善)。

↓ 前期(六月)後期(十月)に日本語支援の手立てを意識した授業を行う。

↓ 日本語支援対象となる児童・生徒一人を絞り、日本語支援の手立てを組み込み、指導案に記入する(指導案様式の改善)。

・九月 講師を招いての研修会
・三月 授業実践を通しての成果と課題

在り方について
講師を招いての研修会
授業実践を通しての成果と課題



小学部低学年の担任による日本語授業の様子

さらに右図下段のように二度目のDLAの参照枠を活用した評価結果も記載し、児童の変容と手立ての有効性についても確認できるようにしています。日常の実践を記録・蓄積することで、次年度以降のカリキュラムの土台にもなると考えています。

柱1の「学級担任による日本語授業」ですが、指導案の裏面に対象児童の実態や日常の指導内容・指導方法を記載することで「見える化」を図っています。これにより、授業を参観する際に「普段どのような手立てを講じているか」「授業中の支援が適切か」などを判断することができ、事後の話し合いも密度の濃いものになっています。

年	学期	月	日	授業の目的	支援の目的
5	1	5	1	DLA(国語)	DLA(国語)
5	2	5	2	DLA(国語)	DLA(国語)
5	3	5	3	DLA(国語)	DLA(国語)
5	4	5	4	DLA(国語)	DLA(国語)
5	5	5	5	DLA(国語)	DLA(国語)
5	6	5	6	DLA(国語)	DLA(国語)
5	7	5	7	DLA(国語)	DLA(国語)
5	8	5	8	DLA(国語)	DLA(国語)
5	9	5	9	DLA(国語)	DLA(国語)
5	10	5	10	DLA(国語)	DLA(国語)
5	11	5	11	DLA(国語)	DLA(国語)
5	12	5	12	DLA(国語)	DLA(国語)
5	1	6	1	DLA(国語)	DLA(国語)
5	2	6	2	DLA(国語)	DLA(国語)
5	3	6	3	DLA(国語)	DLA(国語)
5	4	6	4	DLA(国語)	DLA(国語)
5	5	6	5	DLA(国語)	DLA(国語)
5	6	6	6	DLA(国語)	DLA(国語)
5	7	6	7	DLA(国語)	DLA(国語)
5	8	6	8	DLA(国語)	DLA(国語)
5	9	6	9	DLA(国語)	DLA(国語)
5	10	6	10	DLA(国語)	DLA(国語)
5	11	6	11	DLA(国語)	DLA(国語)
5	12	6	12	DLA(国語)	DLA(国語)
5	1	7	1	DLA(国語)	DLA(国語)
5	2	7	2	DLA(国語)	DLA(国語)
5	3	7	3	DLA(国語)	DLA(国語)
5	4	7	4	DLA(国語)	DLA(国語)
5	5	7	5	DLA(国語)	DLA(国語)
5	6	7	6	DLA(国語)	DLA(国語)
5	7	7	7	DLA(国語)	DLA(国語)
5	8	7	8	DLA(国語)	DLA(国語)
5	9	7	9	DLA(国語)	DLA(国語)
5	10	7	10	DLA(国語)	DLA(国語)
5	11	7	11	DLA(国語)	DLA(国語)
5	12	7	12	DLA(国語)	DLA(国語)
5	1	8	1	DLA(国語)	DLA(国語)
5	2	8	2	DLA(国語)	DLA(国語)
5	3	8	3	DLA(国語)	DLA(国語)
5	4	8	4	DLA(国語)	DLA(国語)
5	5	8	5	DLA(国語)	DLA(国語)
5	6	8	6	DLA(国語)	DLA(国語)
5	7	8	7	DLA(国語)	DLA(国語)
5	8	8	8	DLA(国語)	DLA(国語)
5	9	8	9	DLA(国語)	DLA(国語)
5	10	8	10	DLA(国語)	DLA(国語)
5	11	8	11	DLA(国語)	DLA(国語)
5	12	8	12	DLA(国語)	DLA(国語)
5	1	9	1	DLA(国語)	DLA(国語)
5	2	9	2	DLA(国語)	DLA(国語)
5	3	9	3	DLA(国語)	DLA(国語)
5	4	9	4	DLA(国語)	DLA(国語)
5	5	9	5	DLA(国語)	DLA(国語)
5	6	9	6	DLA(国語)	DLA(国語)
5	7	9	7	DLA(国語)	DLA(国語)
5	8	9	8	DLA(国語)	DLA(国語)
5	9	9	9	DLA(国語)	DLA(国語)
5	10	9	10	DLA(国語)	DLA(国語)
5	11	9	11	DLA(国語)	DLA(国語)
5	12	9	12	DLA(国語)	DLA(国語)
5	1	10	1	DLA(国語)	DLA(国語)
5	2	10	2	DLA(国語)	DLA(国語)
5	3	10	3	DLA(国語)	DLA(国語)
5	4	10	4	DLA(国語)	DLA(国語)
5	5	10	5	DLA(国語)	DLA(国語)
5	6	10	6	DLA(国語)	DLA(国語)
5	7	10	7	DLA(国語)	DLA(国語)
5	8	10	8	DLA(国語)	DLA(国語)
5	9	10	9	DLA(国語)	DLA(国語)
5	10	10	10	DLA(国語)	DLA(国語)
5	11	10	11	DLA(国語)	DLA(国語)
5	12	10	12	DLA(国語)	DLA(国語)
5	1	11	1	DLA(国語)	DLA(国語)
5	2	11	2	DLA(国語)	DLA(国語)
5	3	11	3	DLA(国語)	DLA(国語)
5	4	11	4	DLA(国語)	DLA(国語)
5	5	11	5	DLA(国語)	DLA(国語)
5	6	11	6	DLA(国語)	DLA(国語)
5	7	11	7	DLA(国語)	DLA(国語)
5	8	11	8	DLA(国語)	DLA(国語)
5	9	11	9	DLA(国語)	DLA(国語)
5	10	11	10	DLA(国語)	DLA(国語)
5	11	11	11	DLA(国語)	DLA(国語)
5	12	11	12	DLA(国語)	DLA(国語)
5	1	12	1	DLA(国語)	DLA(国語)
5	2	12	2	DLA(国語)	DLA(国語)
5	3	12	3	DLA(国語)	DLA(国語)
5	4	12	4	DLA(国語)	DLA(国語)
5	5	12	5	DLA(国語)	DLA(国語)
5	6	12	6	DLA(国語)	DLA(国語)
5	7	12	7	DLA(国語)	DLA(国語)
5	8	12	8	DLA(国語)	DLA(国語)
5	9	12	9	DLA(国語)	DLA(国語)
5	10	12	10	DLA(国語)	DLA(国語)
5	11	12	11	DLA(国語)	DLA(国語)
5	12	12	12	DLA(国語)	DLA(国語)

おわりに

この二年間、本校は「日本人学校における日本語教育プログラムの開発」という課題に対して、「担任による日本語指導の確立」「汎用性の高い教科学習と関連付けた日本語指導プログラムの作成」と、具体的実践を積み重ねてきました。

横展開へとあゆみを進めた三年目ですが、日本語力向上のための「より上質かつ効果的な」教育を提供するために、より一層研修を深めたいと、思いを新たにしています(文章作成 AG5委員会 佐藤敬示)